

- (1) 築炉じん肺第2陣訴訟
- (2) メーカー
- (3) 文化運動
- (4) 白ネコレオの気持ち
紫陽花
組合行事予定

SOLIDARITE 「連帯」 ソリダリテ

建交労大牟田支部通信 (No.15)

築炉じん肺裁判 第二陣訴訟第四回公判

働く者の連帯で被災労働者救済

傍聴者30名、裁判長が大和工業提出の書類を確認

五月の青空、一面に晴れ渡った大空の下、築炉じん肺裁判の法廷である。今回は、午前10時開廷で、9時45分からの門前集会である。9時45分に合うようにする。9時45分には、8時29分の電車しかない。天神からタクシーを使えば何とか間に合うか？。天神に着き次第タクシー四台に分乗し裁判所まで直行したが、最初の一台だけが、何とか間に合う状況だった。



門前集会もそこそこに、3階の法廷へ、弁護団10名、傍聴者30名、裁判長が大和工業提出の書類を確認する。続いて伊黒弁護団長が、次回弁論の問題点について説明。岩城弁護士が、大和工業提出の書類について、肺がん合併症の時期が違っていると指摘。池上弁護士が、大和工業の書面は、粉じん対策の時期が遅れているのに、さも早くから対策が取られていたように装っていると指摘。裁判長が、「大和工業は反論がありますか」と言ったのに、何の反論もできませんでした。



報告集会は、弁護士会館の3階で開催された。エレベーターもなく、足が悪い人には、苦行であり、つらい時間であった。ただ思うのですが、みんな集まってくれました。熊本建交労の高田さんの司会で始まり、弁護団の報告、松田県本部委員長の挨拶、平川の団結ガンバローで、終了しました。

今回は、大牟田から15名、県本部3名、県労連2名、大分、熊本建交労など総勢30名が集結してくれました。原告の野林さんが参加したこともよかったです。ありがとうございます。

(平川)

- ※
1. 働くものの国々が地球をつくる
宇宙をつくる
 2. 働くものの団結がくらしをつくる
未来を創る
 3. 働くものの太陽がめざめた心と
こぶしをてらす
- ※
- 「全日自労の組合歌をつくらう」「いやな組合なんてなくなる組合だから、組合歌と名付けよう。」
- 「こぶし固めて」
- 世界を結ぶ解放のうた
こぶし固めて さあ

じかたび

「全日自労の組合歌をつくらう」「いやな組合なんてなくなる組合だから、組合歌と名付けよう。」

「はたらくものの団結で、生活と権利を守り、平和と民主主義、中立の日本をめざそう！」

第88回 大牟田地区統一メーデー

労働者の祭典「メーデー」が、5月1日、国道208号線に隣接する、築町公園で開催された。雲一つない晴れたる空は、私たち労働者の団結する声が天まで響き渡ります。

メインスローガンは、安倍暴走政治による「国民無視」政治の打倒を中心に据え、老若男女が一斉に集った。

今回のメーデーの舞台には、各労働組合からそれぞれが抱える事情を問題提起した。中でも、我らが平川執行委員長は、三池闘争当時の闘いと労働者階級の生活を語り、今日の労働者が資本の食い物にされている実態をありのままに訴えた。労働者の代表たるその語りは、現代の労働者階級の実態を露にするものであった。



様々な労働団体からエントリーされたアピールボードがずらり。

そして、私たちメーデー参加者らは、大牟田が生んだ労働者作曲家・荒木栄の「ガンバロー」で背中を押してもらった。なかのように、国道208号線を大行進した。額に汗し働く者たちのシュプレヒコールは、世の中に響きこだましました。

しかし、今年は戦後72年になるが「第88回」ってもしかして戦前から…？

(津波古)



うたごえ 喫茶♪

梅雨の季節。雨が降り、なかなか気分が晴れないかもしれません。歌声を出して、こころ晴れやかにしてみませんか！

①6月10日(土) 14時
会場：だいふく5階
参加費：800円

(ドリンク込み)
電話：53-3333

②6月28日(水) 14時
会場：れんが亭

(橋交差点付近)
参加費：800円
(ドリンク込み)
電話：58-3300



自主上映100人の会

生きる

6月18日(日)
会場：だいふく5階
時間：①10時
②13時
参加費：500円

監督：黒澤 明
主演：志村喬、
小田切みぎ

あらすじ

市役所で市民課長を務める渡辺勤治は、かつて持っていた仕事への熱情を忘れ去り、毎日書類の山を相手に黙々と判子を押すだけの無気力な日々を送っていた。市役所内部は縄張り意識



で縛られ、住民の陳情は市役所や市議会の中でたらい回しにされるなど、形式主義がはびこっていた。

ある日、渡辺は体調不良のため休暇を取り、医師の診察を受ける。医師から軽い胃潰瘍だと告げられた渡辺は、実際には胃癌にかかっていると悟り、余命いくばくもないと考える。不意に訪れた死への不安などから、これまでの自分の人生の意味を見失った渡辺は、市役所を無断欠勤し、これまで貯めた金をおろして夜の街をさまよう。

そんな中、飲み屋で偶然知り合った小説家の案内でパチンコやダンスホール、ストリップショーなどを巡る。しかし、一時の放蕩も虚しさだけが残り、事情を知らない家族には白い目で見られるようになる。その翌日、渡辺は市役所を辞めて玩具会社の工場内作業員に転職しようとしていた部下の小田切とよと偶然に行き合う。何度か食事をともにし、一緒に時間を過ごすうちに渡辺

は若い彼女の奔放な生き方、その生命力に惹かれる。自分が胃癌であることを渡辺がとよに伝えると、とよは自分が工場で作っている玩具を見せ「あなたも何か作ってみたら」といった。その言葉に心を動かされた渡辺は「まだできることがある」と気づき、次の日市役所に復帰する。

それから5か月が経ち、渡辺は死んだ。渡辺の通夜の席で、同僚たちが、役所に復帰したあとの渡辺の様子を語り始める。渡辺は復帰後、頭の固い役所の幹部らを相手に粘り強く働きかけ、ヤクザ者からの脅迫にも屈せず、ついに住民の要望だった公園を完成させ、雪の降る夜、完成した公園のブランコに揺られて息を引き取ったのだった。

お問合せ：橋本さん
電話：(58) 7663

新公園の周辺に住む住民も焼香に訪れ、渡辺の遺影に泣いて感謝した。いたたまれなくなった助役など幹部たちが退出すると、市役所の同僚たちは実は常日頃から感じていた「お役所仕事」への疑問を吐き出し、口々に渡辺の功績をたたえ、これまでの自分たちが行なってきたやり方の批判を始めた。



